



ご支援・ご協力いただいた企業・団体様一覧

株式会社デンソー／株式会社オリエントコーポレーション／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
 新和薬品株式会社／公益財団法人社会貢献支援財団／デンソー労働組合／株式会社デンソーロジテム
 株式会社シェフランチ／デンソーはあとふる基金／ライフティ株式会社／株式会社ビジネスパートナー
 デンソーテクノ株式会社／名古屋熱田ライオンズクラブ／株式会社ワールディング／デンソー班長会
 株式会社デンソーユニティサービス／株式会社デンソーエアクール／名古屋カラーウェルテック株式会社
 株式会社R and Tカンパニー／株式会社モビリティイノベーションテクノロジー／暁輸送株式会社
 株式会社ティーネットジャパン／株式会社デンソーエレクトロニクス／株式会社デンソーウェーブ
 株式会社デンソーワイパシステムズ／株式会社デンソーシェアードサービス／株式会社クイックス
 カリッソー株式会社／株式会社デンソーエムテック／株式会社デンソーファシリティーズ／刈谷紙器株式会社
 株式会社デンソーリマニ／浜名湖電装株式会社／株式会社デンソートリム／株式会社デンソーダイシン
 株式会社UACJアルミセンター／トヨタL&F中部株式会社／株式会社八神製作所／社会福祉法人太陽の家
 株式会社デンソープレステック／株式会社デンソーワイズテック／株式会社デンソー郵船トラベル／sun
 株式会社デンソーエスアイ／株式会社アイピックス／デンソー太陽株式会社／赤門ワイレックス株式会社
 株式会社マキノ／株式会社ヤマイチプライメタル／小田鐵網株式会社／株式会社トーション／リンナイ株式会社
 ジェコー株式会社／伊藤精工株式会社／学校法人日本福祉大学／寿金属工業株式会社／スマイルひねる会
 MD三好設計事務所合同会社／デンソーロジテム国際物流室／サントリービバレッジサービス株式会社
 株式会社アベックス／株式会社デンソーソリューション／FG依佐美ランナーズクラブ／認定NPO法人 パンドラの会
 株式会社PSビバレッジ／石川管工株式会社／中部産業株式会社／株式会社デンソーサービス沼津
 京三電機株式会社／岐阜エクスプレス （順不同）

WAFCA ANNUAL REPORT 2025



発行：認定NPO法人アジア車いす交流センター（WAFCA）
 〒448-0026 愛知県刈谷市中山町二丁目38 ディースクエア4F
 TEL：0566-23-5822 FAX：0566-23-5827 MAIL：contact@wafca.jp

発行日：2026年6月25日

あの頃の私と同じ思いを、きっと抱えている ー現地スタディプログラムが生んだ、お母さん同士の交流

話し手：岡部 扶美子さん
認定NPO法人パンドラの会 設立者(WAFCAMンスリーサポーター)
聞き手：WAFCAT事務局長 西村

2026年2月。コロナ禍による中断を経て、WAFCATのインドネシア・現地スタディプログラムが久しぶりに再開しました。参加者のひとりに、長年刈谷市で障がいのある人の就労支援に取り組んできたパンドラ会の岡部扶美子さんがいました。現地で出会ったのは、車いすを使う少年アビーくんとそのお母さん。同じく障がいのある子どもを育ててきた母として、心を通わせた交流について伺いました。



岡部 扶美子さん（写真左）

知的障害のある息子の母。息子の中学校入学時、「企業就労は難しい」と告げられたことをきっかけに、障害のある人が地域の中で働き、活躍できる場の必要性を痛感。同じ思いを持つ保護者とともに1996年にパンドラの会を設立し、障害のある人の就労支援と地域づくりに尽力している。

【聞き手より】

NPO法人パンドラの会さんは、愛知県で第1号の認定NPO法人となった地域の大先輩。エネルギーに満ちあふれた岡部さんを初めて知ったのは、私がまだ大学生の頃でした。同じ刈谷のまちで何度か一緒にすることはあっても、WAFCATの活動の現場へお誘いする機会はこれまでありませんでした。今回、古くからのWAFCAT会員さんが岡部さんを誘ってくださったことから、このストーリーは生まれました。暮らす環境も、障がいの種別も違う。それでも「障がいのある子を育てる母」という共通点で、岡部さんとアビーくんのお母さんは、確かにつながりました。翻訳アプリを通じた文通は、今日も続いています。私たちが届けているのは、車いすだけじゃない。その先に生まれる人と人との交流もまた、彼らの人生に寄り添う大きな力になる。その確かな手応えを、岡部さんに教えていただきました。(西村)



ご主人の「行ってこいよ」に背中を押されて

西村：今回のプログラムへの参加を決められたきっかけを教えてください。

岡部：実は参加するかどうか、かなり迷っていたんです。主人が70歳のときに大病をしてから、私自身もどこかへ出かけることに慎重になっていました。
そんなとき、「こんなプログラムがあるんだけど」と主人に相談したら、意外にも「それは行ったほうがいい」と言ってくれて。あの一言がなければ参加していなかったと思います。
しかも出発の時期は私たちにとって一年で最も忙しい時期です。それでも職員たちが「私たちがやっておきますから」と送り出してくれて、本当にみんなに支えられた旅でした。

「うちの息子もね」ー翻訳アプリ越しに語り合った母たち

西村：プログラムでは、車いすを届けたアビーくんのご家庭を訪問されましたね。

岡部：はい。お母さんとおばあちゃんのお二人が中心になって介護をされていました。
特に大変なのがお風呂です。アビーくんはどんどん大きくなっているのに、お母さんは私と変わらないくらい小柄な方なんです。二人がかりで抱えて入浴させていると聞いて、胸がぎゅっとなりました。
それでも「車いすが来てから移動が楽になったの」と笑顔で話してくださって、その笑顔に少し救われた気がしました。
西村：お母さんとはたくさん話しされたそうですね。
岡部：翻訳アプリを使いながら、「うちの息子は今こんなお菓子を作っているんですよ」とか、「小さい頃はこんな子だったんですよ」とか、自分の子育ての話をしました。
障がいの種類も国も違うのに、お母さんの話していることが不思議なくらい分かるんです。母親として感じることは同じなんだなと思いました。
日本から地元のお祭りのうちわとカップヌードルを持って行ったんですが、なんとアビーくんの大好物もカップヌードルだったんです。「ちょうどよかったね」とみんなで大笑いしました。
帰り際には、おしゃれなおばあちゃんが大きなブルーのネックレスをそっと手渡してくださって。うれしい気持ちと申し訳ない気持ちが入り混じる、忘れられない出来事でした。

「9歳、10歳の頃は、未来が見えなかった」

西村：岡部さんご自身も、障がいのあるお子さんを育ててこられました。アビーくんのお母さんの姿に、ご自身を重ねる部分もあったのではないのでしょうか。
岡部：ありましたね。
息子が9歳、10歳の頃は、未来が見えませんでした。この子は大人になったらどうなるんだろう、働く場所はあるんだろうか、と不安ばかりでした。それでも毎日、ご飯を食べさせて、お風呂に入れて、一日が終わる。くたびれて眠って、また朝が来る。その繰り返しでした。
アビーくんのお母さんも、きっと今その真ただ中にいるんだと思います。大きくなっていく息子さんをいつまで支えられるだろうか、頼れる場所はあるだろうか。あの頃の私と同じ思いを抱えているように感じました。
でも息子が中学校の支援学級に入った頃、「これは自分で何とかしなきゃ」と初めて腹をくくることができたんです。いろいろな施設を見て回り、その先にあったのがパンドラの立ち上げでした。
国も制度も違います。でも親の気持ちは同じです。だから今度の手紙には、「今は大変でも、子どもが成長すると見える景色も変わってくるよ」と書こうと思っています。私が少しでも希望になれたらうれしいですね。

現地スタディプログラムが生んだ、お母さん同士の交流

西村：帰国後も、お母さんとの交流は続いているそうですね。
岡部：はい。翻訳アプリを使って文通のようなやり取りをしています。
兄がインド旅行のお土産にくれた絹のスカーフに手紙を添えて送ったんです。すると一か月ほどして、「届きました」と長いお返事が来ました。その中に、「あなたとの出会いは、私にとってとても大切なものです」と書かれていて、思わず胸が熱くなりました。ああ、本当につながれたんだなと思いましたね。

久しぶりに、ワクワクした

西村：最後に、プログラム全体を振り返っていかがでしたか。
岡部：10代から70代まで、本当に幅広い世代が参加していました。中学生もいて、みんなで同じ景色を見て語り合えたのがよかったですね。現地での暮らしを知ることで、日本で働いてくれている外国の方々への感謝の気持ちも生まれました。
帰国後は「あの子がね」「あそこではね」と話が尽きなくて、夫婦の会話も増えました（笑）。
本当に久しぶりにワクワクしたんです。こんな世界があるんだ、と。私にとって人生が変わるような旅でした。

目次	
対談	1
2030年VISION	3
日本事業	5
事業報告	
WAFCAT	7
WAFCAT	9
スタディプログラム	11
車いす病院	13
教育支援基金	15
チャリティウォーク	17
2025年主な活動	18
理事挨拶	19
財務報告	21
QOL調査	22



WAFCA 2030年VISION

アジアの障がい児一人ひとりに寄り添い、
自立を支える実効性のある環境づくりを。

WAFCAの活動

1999年に株式会社デンソーがWAFCAを設立してから26年。
積み重ねてきた年月の中での学びを活かし、障がい児に対し包括的な支援を行っています。

障がい児一人ひとりに寄り添い、
段階的に自立を後押しする。

自立を支える



一人ひとりに合わせた車いす支援、学びと社会参画につながる教育支援、そして自宅・学校・地域のバリアフリー化支援を通じて、障がいのある子どもたちの自立を支える環境づくりを進めます。

相互訪問を通じて、国境を超えた「学び合い」を定常化する。

つながりを広げる



国際交流と人材育成を通じて、支援に関わる人々の学びとつながりを深め、国や地域を超えて共感の輪が広がる社会づくりを進めます。

会費だけに頼らず、
幅広い収入源を構築する。

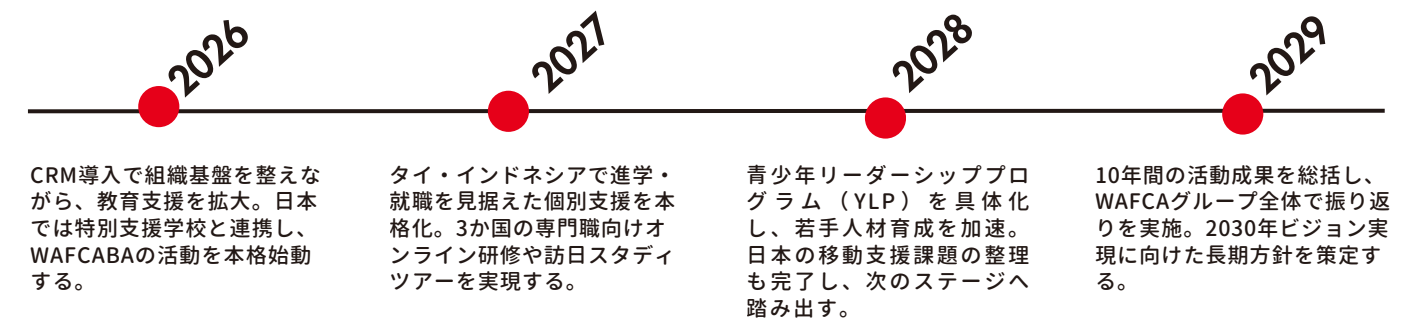
未来を支える



寄付や会員の拡大、多様な財源の確保を通じて財政基盤を強化し、障がいのある子どもたちへの支援を将来にわたって継続できる持続可能な組織運営を目指します。

WAFCAのこれから

これまでの26年間で築いてきた信頼と実績を礎に、WAFCAはさらなる支援の深化へ踏み出します。2030年ビジョンの実現に向け、4年間の歩みがここから始まります。



WAFCAの活動のお知らせや
報告はホームページをご覧ください



日本事業

障がい児・者本人の“選択”と、家族の”選択”、

それぞれの選択のプロセスに寄り添える場をつくる

移動と選択の自由を、 愛知・刈谷から



日本にも、 届いていない手がある。

「どこに聞けばいいかさえ、わからなかった」。障がいのある子を持つ親が口にした言葉です。制度はある。でも届いていない。私たちは今、日本の中にある見えにくい課題と向き合おうとしています。

なぜ、日本なのか。

WAFCAはこれまで26年間、日本で寄付を集め、タイとインドネシアの障がい児支援に取り組んできました。車いすを届け、教育支援を行い、バリアフリー化を進める。その活動を支えてくださったのは、日本の会員や寄付者の皆さまです。では、なぜ今、日本で事業を始めるのか。その問いに、正直に答えたいと思います。

日本にも、 届いていない手がある。

「体に合う車いすは買える。でも、学校に通う手段がない。」ある関係者へのヒアリングで、最初に返ってきた言葉です。移動支援の制度は存在します。しかし、通学や通勤には利用できないという盲点があり、必要としていても利用を断念する人がいます。親がフルタイムで働けない。子どもが行きたい学校を選べない。制度の外側にある現実、数字で見る以上に重いものでした。

未就学の障がいのある子を育てる親が直面するのは、制度の複雑さだけではありません。情報収集は個人任せで、孤独の中を手探りで進まなければならない現実があります。

ようやく見つけた療育施設で、預かってもらえるようになったある母親は、こう話してくれました。

「1週間でたった40分だけが自分の時間だった」。そんな声が、私たちのすぐ身近にあります。

制度があっても対象にならない。どこに相談すればいいのかわからない。そうした経験をしてきた家族が、愛知・刈谷にいました。学校卒業後の選択肢も、決して多くはありません。「通える就労施設に行くか、自宅で過ごすか」という二択になりがちです。やりたいことを経験する機会が少ないため、自分が何をしたいのかさえわからない。

地域の協力者から 聞こえてきた声。

刈谷特別支援学校で『卒業したら何がしたい?』と尋ねたとき、答えが返ってこなかった――刈谷市内で活動する、当事者団体「自立生活支援センターアクセル」代表の佐藤さんは、その状況に危機感を抱いたといいます。

「できることがあっても、発揮できる場所がない。」WAFCAに関わる車いすユーザーの方からもそんな声を聞きました。

「選択の自由」という、 見えにくい課題。

タイやインドネシアの障がい児が直面するのは、車いすが買えない、学校に通えないといった、目に見えやすい課題です。

一方で、日本の課題はもう少し見えにくいところにあります。制度はある。でも使えない。学校には行ける。でも選べない。



愛知淑徳大学で国際交流を学び、卒業後はタイで日本語教師として活動。2019年にWAFCAへ入職後、日本にも支援を必要とする子どもたちがいることに気づき、日本事業の立ち上げに尽力。国内外の障がい児支援を通じて、誰もが自分らしく暮らせる社会づくりを目指している。愛犬との散歩が日々の楽しみ。

一見すると環境は整っているように見えます。しかし、その人らしい人生を選択できる環境は、まだ十分とは言えません。

WAFCAは20団体以上へのヒアリングを通じて、その現実を知りました。

「移動と選択の自由」を、 愛知・刈谷から。

WAFCAが日本でつくりたいのは、華やかなイベントでも、完璧な支援プログラムでもありません。障がい児とその家族が、孤立せず、選択肢を知り、自分の言葉で話せる場です。

利害も損得も付度もない、「斜めの関係」が生まれる場所。障がいのある子も、きょうだいも、保護者も、ボランティアも、同じ場で関わるができる機会。誰かに遠慮することなく、「これがやりたい」「これが不安だ」と言える場をつくること。それが、WAFCAが日本でまず取り組みたいことです。

アート活動、企業への見学、アウトドア体験――コンテンツは小さなことから始めます。でも、その積み重ねが「やってみた」という経験になり、次の選択肢を広げていくと信じています。自分にできることがある、行きたい場所がある、会いたい人がいる。そういう実感を、一人でも多くの子どもと家族に届けたい。

26年間、日本から海を渡って届けてきた支援の力を、今度は足元から育てていく。愛知・刈谷から、動き始めます。



WAFCAT



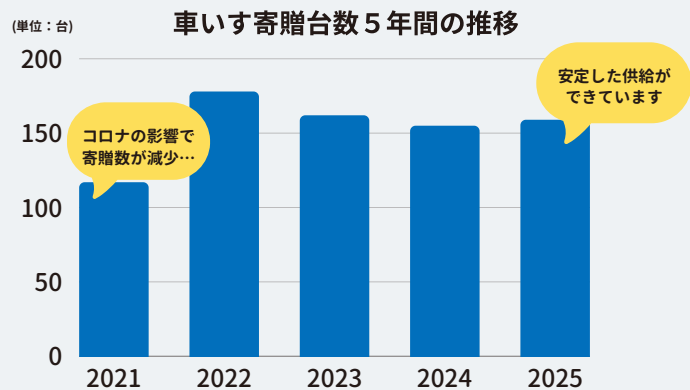
タイでは、2025年度も障がいのある子どもたちとその家族への支援を継続するとともに、新たな啓発活動や関係機関とのネットワーク強化にも取り組みました。また、25周年記念事業や資金調達においても、多くの皆さまからの温かいご支援をいただき、目標を達成することができました。私たちの活動は、子どもたちの笑顔と成長、そして支えてくださる皆さまの存在によって支えられています。心より感謝申し上げます。これからも、障がいのある子どもたちが平等な機会を得て、自分らしく生きられる社会の実現を目指し、活動を続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



マネージャー
ウィング

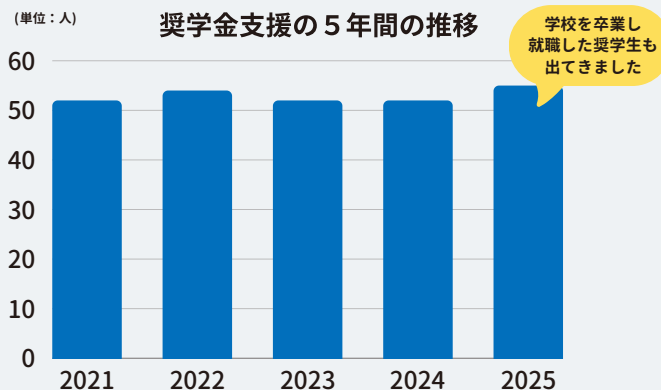
車いす支援事業

2025年度は、目標としていた150台を上回る159台の車いすを子どもたちへ届けることができました。これも、タイ各地の特殊教育センターの理学療法士（PT）の皆さまのご協力により、ニーズ調査から車いす提供後のフォローアップまで、継続的な支援体制を築くことができた成果です。



教育支援事業

2025年度は、目標としていた55名の子どもたちに奨学金を提供することができました。長年にわたる継続的な支援により、高学年へ進級した奨学生や、進学・就職という新たな一歩を踏み出す奨学生も増えてきています。



WAFCAT主催・タイ南部 理学療法士セミナー開催



参加者数：46名
対象地域：タイ南部14県
参加PT：41名
日本人講師：5名
次回開催：タイ北部（2026年度予定）

2026年3月23日・24日の2日間、タイ南部14県で活動する理学療法士（PT：Physical Therapist）を対象としたセミナーを開催しました。参加者は理学療法士41名と日本人講師5名の計46名で、WAFCATと南部特別支援教育センターとのネットワーク強化、理学療法士の評価・実践力向上、そして現場が抱える課題や解決策の共有を目的に実施しました。

タイでは、障がいのある子どもたちへの支援において理学療法士が重要な役割を担っています。車いすの選定や身体機能の評価だけでなく、子どもや家族への助言、学校や地域との連携など、その活動は多岐にわたります。本セミナーは、そうした理学療法士同士が学び合い、地域を越えてつながる機会として開催されました。

セミナーでは、「ウェルビーイング（Well-being）の向上」「車いす提供ガイドライン」「日本における車いすの利用」「車いすダンス」などをテーマに講義やグループワークを実施しました。また、各地域での支援事例や課題について意見交換を行い、より良い支援のあり方について理解を深めました。



その結果、タイ南部の理学療法士とのネットワークをさらに強化し、パートナーシップを深めることができました。また、子ども一人ひとりに合った車いす提供の質を向上させるための知識や視点を共有する貴重な機会となりました。

2026年度はタイ北部での開催を予定しており、将来的には全国規模の理学療法士セミナーの実現を目指しています。地域を越えた学びと連携の機会を継続的に創出することで、タイ全土における障がい児支援の質の向上につなげていきます。

家族と歩む未来 — カオホームちゃんのリハビリの日々

カオホームちゃん（9歳）は、タイ南部の寺院の敷地内で家族と暮らしています。出産時の低酸素状態により脳性まひがあり、2025年にWAFCATから車いすを支援しました。その後も理学療法士の助言を受けながらリハビリに取り組んでいます。車いすは日常生活で活用されており、お母さんは毎日、正しい姿勢で座る練習を続けています。会話をすることは難しいものの、表情や身体を動かした意思表示を通じて周囲とコミュニケーションを取っています。WAFCATは継続的なフォローアップを行いながら、首や足のコントロール向上を目指した支援を続けています。車いすの活用とリハビリを通じて、安定して座ることができる時間が増え、活動の幅が広がることが期待されています。





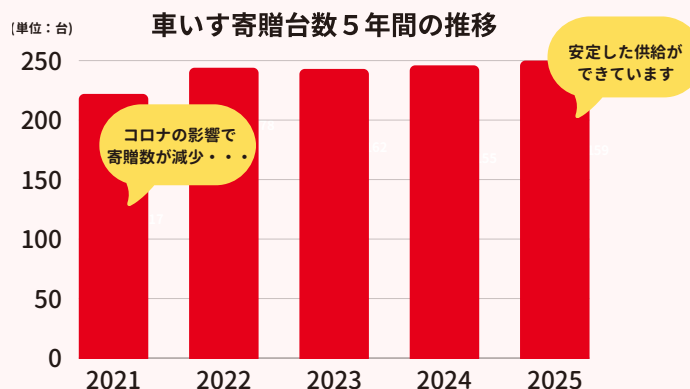
2025年は、WAFCAインドネシアにとって、新たな10年の始まりとなる節目の年です。2025年度も障がいのある方々とその家族への支援を継続し、250台の車いす提供と78名への教育支援を実施しました。また、大学との連携を強化し、学生・教員・車いす利用者が交流しながら学び合う機会づくりにも取り組みました。これらの活動は、皆さまからの温かいご支援によって支えられています。心より感謝申し上げます。これからも、障がいのある方々が平等な機会を得て、自分らしく生きられる社会の実現を目指し、活動を続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



マネージャー
ディマス

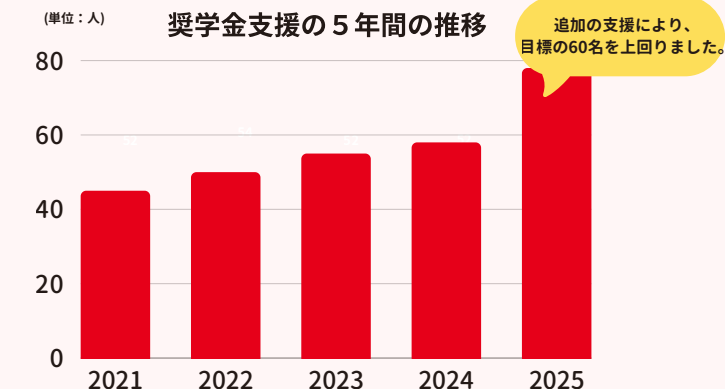
車いす支援事業

2025年度は、目標としていた250台の車いすを子どもたちへ届けることができました。その一方で、支援を継続・拡大していくためには、子ども用姿勢保持車いすの改良や安定的な調達、車いすプロバイダーの育成が重要であることを改めて認識しました。今後は、こうした基盤づくりにも力を入れていきます。



教育支援事業

2025年度は、目標としていた60名を大きく上回る78名の子どもたちに奨学金を提供することができました。これは、皆さまからの継続的なご支援と追加のご支援により実現したものです。奨学金は、子どもたちの学びを支える大きな力となっています。



ジャカルタ州立大学とのパートナーシップ

WAFCAIは、インドネシアにおける人材育成と障がい児支援の充実を目指し、ジャカルタ州立大学との連携を進めています。

2025年11月には、特別教育学科とのボランティアプログラムを開始しました。学生たちはチームごとに、WAFCAIの支援を受ける子どもたちへの関わり方を検討し、それぞれのアイデアをもとにボランティア活動を実施しました。また、WAFCAIの奨学生とペアになり、学校生活や将来の目標、自身の経験などを共有しながら交流を深めました。活動を通じて、参加者同士の相互理解が促進され、多様性や共生について学ぶ貴重な機会となりました。



2026年2月には、日本語教育学科とMOU（協力覚書）を締結しました。人的・教育的リソースの相互活用をはじめ、通訳・翻訳支援、障がい児支援に関する情報共有や活動協力を進めていくことで合意しました。また、学生の学びや国際交流の機会創出にも取り組むことを確認しています。

さらに、2026年2月に実施したインドネシア現地スタディプログラムでは、日本語教育学科の学生4名が通訳ボランティアとして参加しました。現地での交流や活動を支える重要な役割を担い、大学との連携が具体的な形で広がっています。

今後も大学とのパートナーシップを通じて、障がいのある子どもたちへの支援と次世代を担う人材の育成を両輪で進めていきます。

動けることが自信になる — テガルさんの挑戦

テガルさん（17歳）は、2020年にWAFCAIから車いすの支援を受け、2022年からは奨学金を活用して学業を続けています。奨学金はパソコンの購入や制服・通学費などに役立てられ、安心して学習に取り組める環境を整えることができました。

現在は大学進学を目指しながら、コーディングやゲーム開発、翻訳、グラフィックデザインなどを独学で習得しています。2022年には国際インターネットリテラシーコンテストで優勝を果たすなど、その努力は確かな成果として表れています。オンラインコミュニティを通じて海外の仲間とも積極的に交流し、知識と経験を広げています。

「奨学金や周囲の支えが、自分への自信につながった」とテガルさんは話します。身体的な制約による困難に直面しながらも、失敗を糧に前向きな挑戦を続けています。将来はIT分野やゲーム開発に携わり、自身のスキルをさらに磨きながら夢の実現を目指しています。



インドネシア現地スタディプログラム

WAFCAが支援するインドネシアの現場を視察し、障がいのある子どもたちとの交流を通じて日常生活や困難への理解・共感を深めることを目的に実施しました。



プログラム概要

実施期間 2026年2月11日(水)~17日(火)	参加者 13名 (10代~80代)	訪問先 5か所	訪問地域 インドネシア (ジャカルタ)
---	------------------------------------	-----------------------	--------------------------------------

このプログラムで学んだこと

- ☒ 障がいのある子供や家族との交流
- ☒ インドネシアの教育・福祉現場の視察
- ☒ 大学生や専門職との国際交流
- ☒ 家庭訪問による生活課題の理解

成果 参加者13名が5か所の訪問先で障がいのある子どもや家族、学生、教職員、関係者との交流を行いました。

1 多様な交流

障がいのある子どもや家族、学生、教職員、関係者と直接交流し、相互理解を深めました。

2 現場の学び

教育機関や福祉施設の視察、家庭訪問を通じて、インドネシアの支援の現状や課題を理解しました。

3 今後への一歩

参加者からは、国際協力やボランティア活動への関心が高まったとの声を多く寄せられました。

参加者の声

子どもたちや障がいのある方と触れ合う機会が多くあったのがとにかく良かった。また交流だけでなく、観光や買い物ができる時間もあり、インドネシアの文化などを知ることができてとても勉強になった。

割貝さん
(高校1年生)

実際に障がいのある方やそれを支援されている方など多様なバックグラウンドを持つ人たちに出会えたことが本当に良かったと感じています。現地の皆さんがどこに行っても暖かく迎え入れてくださり嬉しかったです。

山宮さん
(大学2年生)

現地事務局(WAFCAI)の感想

日本の参加者と子どもたちや家族、学生、地域の方々との温かい交流が生まれました。特に家庭訪問では、参加者が子どもたちの生活や家族の想いに触れ、深い学びを得る姿が印象的でした。私たち現地スタッフにとっても貴重な学びの機会となり、今後も両国をつなぐ交流を大切にしていきたいと考えています。

各訪問先と内容



①ウラカ・ペンチャ特別支援学校

学校を訪問し、障がいのある子どもたちとの交流や体験活動を行いました。ポッチャやゲームを通じて交流を深めるとともに、インドネシアの特別支援教育や子どもたちの学習環境について学びました。



③ジャカルタ州立大学

日本語教育学科および特別教育学部を訪問し、学生や教員との交流を行いました。障がい者支援に関する講義やリハビリテーション施設の見学、子どもや保護者との対話を通じて、インドネシアの教育・福祉の現状について学びました。



②ウスマ・チェシア財団

職業訓練や自立生活支援の取り組みについて学ぶとともに、利用者との交流活動を通じて、障がいのある人が地域の中で主体的に暮らすための支援のあり方について理解を深めました。



④障がい児自宅訪問

WAFCAIが支援する障がいのある子どもたちの家庭を訪問し、子どもや保護者との対話を行いました。生活の様子や支援の現状について直接話を聞くことで、障がい児と家族が直面する課題やニーズについて理解を深める貴重な機会となりました。

ツアー担当・北村からのご案内

現地スタディプログラムは障がいのある子供たちや家族、関係者との出会いを通じて多くの学びと気づきを得られる貴重なプログラムです。
参加者同士の交流やチームワークも深まり、きっとかけがえのない経験になります。
このプログラムは今後も実施していきます。来年も皆さんの参加を心よりお待ちしております！

WAFCA事務局
北村翔一



WAFCA 車いす病院

車いす病院の3つの役割



アジアの障がい児のための
収益事業



WAFCA最大の
ボランティアコミュニティ



地域の車いすユーザーが
安心できる車いすの総合病院

2025年 活動実績

修理台数 **366台** 中古車いす販売 **21台** 点検キャラバン **5回** 体験機会の提供 **11回**

学生への体験機会の提供/地域への出張点検



桜花学園大学



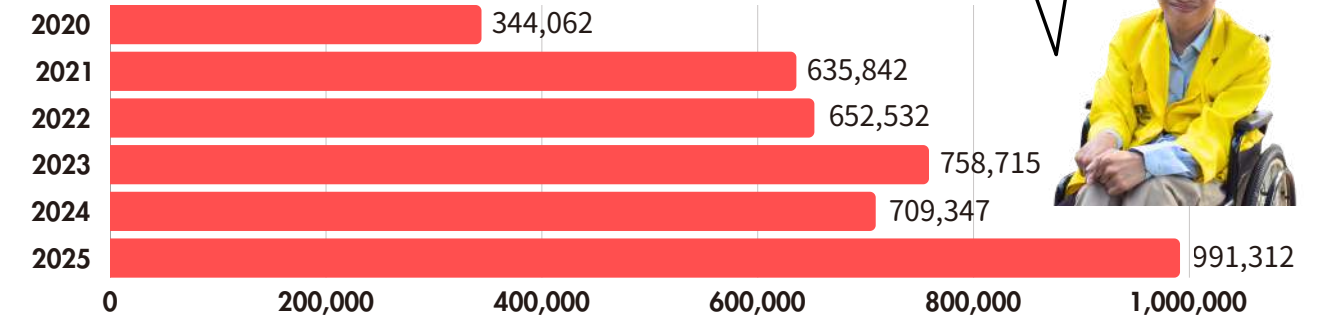
金城学院大学



NPO法人ラルあゆみ

車いす病院では、刈谷市内の拠点での活動に加え、福祉施設や社会福祉協議会へ出向く「キャラバン」を継続しています。利用者のもとで修理・点検を行い、移動や持ち込みの負担軽減につなげています。
また、大学・専門学校と連携し、学生が車いす整備を体験しながら福祉への理解を深める学びの場としても活用されています。2025年度も多くの学生が参加しました。

収益の推移(2020~2025年度)



収益はタイ・インドネシアの車いす購入費用に充てられます



ボランティアの声

- 利用者の方から「ありがとう」と言っていただけた時に、大きなやりがいを感じます。
- 会社や学校では出会えない仲間と一緒に活動でき、新しい学びや発見があります。
- 車いすユーザーや施設の方のお話を直接聞き、福祉や障がいへの理解が深まりました。
- 車いすの整備を通じて、誰かの役に立てていることを実感でき、自分自身の成長にもつながっています。



2026年度に向けて

- 適正な修理価格の見直しを進め、持続可能な運営体制を整えます。
- ボランティアの募集・育成を強化し、世代を超えた活動の継続を目指します。
- 作業スペースの改善を進め、より安全で効率的な修理環境を整備します。
- 工具や部品の確保・管理体制を強化し、安定した活動につなげます。



障がい児教育支援基金の お礼とご報告

信じてくれる大人がいれば、
子どもは未来へ進める。

皆さまのご支援に、
心より感謝いたします。

2025年度、WAFCAは「WAFCA教育支援基金クラウドファンディング」を実施しました。タイ・インドネシアで暮らす障がいのある子どもたちが、経済的な事情で学びをあきらめることのないよう、教育を継続するための支援金を募るプロジェクトです。

皆さまからのあたたかいご支援により、目標額350万円に対し、2,997,700円（達成率85%）のご寄付をいただき、2025年1月16日にキャンペーンを終了いたしました。

目標金額には届きませんでしたが、これほど多くの方が子どもたちの「学びを続けたい」という願いに心を寄せ、行動してくださったことに、私たちは深い感謝と感動を覚えています。お一人おひとりのご支援が、タイ・インドネシアで新学期を迎える障がいのある子どもたちにとって、確かな「学ぶ機会」と「未来への選択肢」につながります。

本キャンペーンを通して寄せられた応援の言葉やあたたかな想いは、現地の子どもたち・ご家族、そしてスタッフにとっても大きな励みとなりました。改めまして、ご支援くださったすべての皆さまに心より御礼申し上げます。WAFCAは今後も「移動の自由がひろく、子どもたちの未来。」の実現に向けて、一歩ずつ活動を続けてまいります。



現地職員からのお礼と 奨学生からのメッセージ

皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

クラウドファンディングにより、タイ・インドネシアの奨学生たちが学び続けることができました。ここでは、皆さまのご支援がどのように子どもたちの未来につながっているか、奨学生のひとりであるナムワンの歩みを通してご報告いたします。



WAFCA
教育支援担当
ブーペー

私がWAFCAの教育支援と出会ったのは、小学生のころです。家庭の経済状況から、このまま勉強を続けられるのだろうかと不安に思っていました。そんな私にとって、奨学金は「学び続けていいんだ」と思わせてくれる大きな希望でした。

支援のおかげで学業を続けることができ、私はラーチャパット・マハーサーラカム大学行政学部に進学しました。地域行政・開発行政を学びながら、自分の将来に向けて努力を重ねてきました。

大学四年生のときには、WAFCAのパートナーであるデンソーで七か月間のインターンシップに参加する機会をいただきました。受け入れが決まったときは、本当にうれしく、長年の夢が叶ったような気持ちでした。

最初は、身体に障がいのある私が社会人の皆さんと一緒に働けるだろうかと不安もありました。しかし、書類処理や連絡調整、資料作成、広報業務などに取り組む中で、その不安は少しずつ自信へと変わっていきました。職場の方からは、「いつも学ぼうとする姿勢があり、責任感と自信が身についた」と評価していたとき、大きな励みになりました。

そして今年、私は大学を卒業しました。もう一つの夢だったナショナルチームのアスリートになるという目標も実現することができました。小学生のころから積み重ねてきた努力が、二つの夢につながったのだと思います。

今は、諦めずに頑張り続けてきた自分を誇りに思っています。そして何より、小学生のころからずっと支えてくださったWAFCAの皆さま、応援してくださったすべての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございます。

ナムワンの歩みは、皆さまのご支援によって実現したものです。奨学金が学びを支え、その学びが新たな挑戦と未来への道を開きました。

一つひとつのご支援が、子どもたちの可能性を広げています。引き続き、WAFCAの活動への理解とし支援をよろしくお願いいたします。



WAFCAチャリティラン&ウォーク2025

一歩一歩が、誰かの未来をつくる

「WAFCAチャリティラン&ウォーク2025」は、今回で5回目の開催となりました。実施期間を10月5日から12月5日までの2ヶ月間に広げ、774名の方にご参加いただきました。みんなで歩いた歩数は合計2億7,804万9,881歩。この一歩一歩の積み重ねが、車いす60台とバリアフリー化工事2件分の支援につながりました。

「仲間と参加することで、1人じゃないという気持ちになります」「運動習慣の後押しにもなる」といった声が寄せられました。

企業との連携も広がり、11社が継続協賛、新たに5社・団体が協賛してくださいました。デンソー安城製作所労働組合と高棚製作所労働組合による合同の歩数バトルなど、職場の中で支援の輪が広がる機会も生まれています。

参加者の8割以上がWAFCAの非会員で、寄付のハードルの低さが「はじめての出会い」のきっかけになっています。

参加者数 **774** 名 みんなで歩いた歩数 **約2億7800万** 歩

届けられる車いすの数 **60** 台 バリアフリー化工事 **2** 件

ご協力いただいた企業・団体様

DENSO
Crafting the Core

MS&AD
あいおいニッセイ同和損保

DENSO
DENSO LOGITEM

デンソー労働組合



株式会社デンソーユニティサービス

Mazak
ヤマザキマザック株式会社

ディーネットジャパン

株式会社デンソーエアークール

デンソーエレクトロニクス労働組合

金印わさび

DNWS

2025年の主な活動

■ 社会貢献者表彰



このたびWAFCAは、「第64回 社会貢献者表彰」を受賞しました。

全国から選ばれた30団体の中でも、特に功績が認められた3団体のひとつとして選出され、式典ではWAFCAの活動を紹介する動画も上映していただきました。車いすを必要とする子どもたちへの支援、現地スタッフや家族・地域とともにつくってきた取り組み、そして日本での啓発・交流活動。これまで積み重ねてきた一つひとつの歩みを、こうして評価していただけたことを、大変光栄に思っています。この受賞は、WAFCAだけの力でいただいたものではありません。日頃から活動を支えてくださっている会員・寄付者の皆さん、ボランティアの皆さん、そして応援してくださるすべての方の存在があってこそこの受賞です。改めて、心より感謝申し上げます。



■ 授業講師派遣・研修受け入れ

WAFCAでは、国際協力と障がい者支援の分野での活動を通じて得た知見を、日本の生徒・児童・学生に伝える活動として出張授業や研修、ボランティア体験の受け入れを行っています。

経験と知識を持つWAFCA職員による出張授業で世界を知るきっかけになればと考えています。



■ WAFCABA MOVIE

WAFCAは3月5日・8日にドキュメンタリー映画上映会を開催し、延べ122名が来場しました。上映後のトークやアート体験を通じて、「移動の自由」や「やりたいという想い」の大切さについて、多様な参加者と共に考え、学び合う機会となりました。

理事長挨拶

WAFCAは創立以来、アジアの障害児一人ひとりに寄り添い、「自立へと導く実効性のある環境づくり」に挑み続けてまいりました。近年、世界は社会・経済の不安定さに直面し、課題は一層複雑化・深刻化しています。しかし、このような時代であるからこそ、子どもたちの「今」と「未来」を支える歩みを決して止めてはならない・・・その思いを、私たちはより強く感じております。

昨年度より、日本事業のあり方について議論を重ね、新たな一步を踏み出しました。WAFCAの活動をより多くの方々に届け、志を同じくする仲間を広げていきます。そして、日本・タイ・インドネシアの三国が互いの実践を共有し合いながら、より良い支援を共に創り上げていくことを目指しています。

また、新型コロナウイルスの影響で長く中断していたインドネシアのスタディプログラムも本年2月に再開されました。報告会では、多様な世代の参加者が自らの経験と学びを力強く語る姿に触れ、WAFCAの可能性が確かに広がっていることを実感しました。

2030年VISIONの実現に向け、WAFCAは多くの皆様と力を重ねながら歩みを進めてまいります。支援を受ける子どもたちはもちろん、関わるすべての人が生きがいや幸せを実感できる社会へ。すべての人のWell-being向上を目指し、これからも挑戦を続けてまいります。今後とも、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



WAFCA 理事長
桜花学園大学 教授
寺田 恭子



副理事長挨拶

WAFCAは、2030年VISIONの実現に向けて着実に歩みを進めています。これまでタイのWAFCAT、インドネシアのWAFCAIと連携し、障がいのある子どもたちへ車いすや奨学金を届けてきました。子どもたちは「学びたい」「働きたい」という強い想いを抱いています。私たちは、その想いを支える存在として、移動の自由や学ぶ機会を届け、一人ひとりの可能性を広げていきたいと考えています。そして今年度、新たな挑戦として国内での「日本事業」を始動します。海外で培った経験を活かし、日本の子どもたちへも支援の輪を広げていきます。国境を越えて一人ひとりに寄り添い、誰もが自分らしく生きられる社会を目指すこと。それがWAFCAの変わらぬ使命です。

Creating New Paths for Every Smile

名古屋国際工科専門職大学 教授 佐藤久美



新事務局長挨拶

社会情勢不安も進み、分断と煽りの時代とも言われる今、WAFCAの未来だけでなく国際協力・支援関係そのもののあり方が問われています。そんな中、私たちを励ましてくれるのは、まさにWAFCAがサポートしてきた子どもたちの成長や家族の変化、そしてそこにまると関わる現地のスタッフと思い出を語ることです。前理事長であり、私の恩師である榎田勝利先生が語っていた「多様なバックグラウンドを持つ人たちと思い出や未来を語り、その中で共通するものや新しい価値を見つけていく。そんな日常の中での異文化交流が、一人ひとりにとって、社会にとって、世界にとっての平和の第一歩につながる」を体現するような2030年を目指し、まずはWAFCAの歴史を振り返る、過去の先輩たちから学ぶ、現地のスタッフとの対話の時間を増やすというところからはじめていきたいです。

WAFCA事務局長 西村春菜

役員

2026年5月31日現在

理事	松永 圭司	日進医療器株式会社 代表取締役
理事	藤原 孝太郎	愛知県立安城特別支援学校元校長
理事	岩原 明彦	愛知県経営者協会参与
理事	岩崎 正	デンソー太陽株式会社前代表取締役
理事	豊田 優	車いすダンスビバーチェ代表
理事	田中丸 庸	株式会社デンソー総務部長
監事	金子 尚弘	会計事務所プロースト税理士

WAFCAで活動する仲間たち (2026.3.31時点)

WAFCA タイ事務局



タイ事務局長
モンコン

2025年度、WAFCATは車いすの提供、教育支援、バリアフリー化の推進などを通じて、障がいのある子どもたちとその家族への支援を継続してきました。これも、ボランティアや学校関係者、協力機関、支援者の皆さまの温かいご支援とご協力のおかげです。

私は2026年6月をもって事務局長を退任いたしますが、WAFCATが今後も多くの方々と力を合わせながら成長を続け、障がいのある子どもたちとその家族に希望と機会を届け続けることを願っています。



マネージャー
ウィング



車いす事業担当
イウ



教育支援担当
プーペー



経理担当
ベム

WAFCA インドネシア事務局



インドネシア事務局長
ダヌー

2025年度、WAFCAIは組織運営体制の移行や世界情勢の変化などの課題に直面しましたが、車いす支援、奨学金支援、バリアフリー化支援を継続し、多くの障がい児・者を支えることができました。これも日本とインドネシアの支援者の皆さまの温かいご支援のおかげです。

2026年度は、高校や大学へ進学する奨学生が増えることを見据え、ジャカルタ州立大学をはじめとする教育機関との連携を強化し、障がいのある若者たちの自立と社会参加を後押ししていきます。



マネージャー
ディマス



車いす事業担当
アグース



広報担当
ハイカル



教育支援事業担当
エフィ



経理・広報担当
リヤ



車いす事業担当
ハマリヤ

WAFCA 日本事務局



日本事務局長
西村 春菜



ファンレイジング担当
近藤 みなみ



国際交流担当
北村 翔一



広報担当
江端 順子



会計担当
文屋 清美

プロジェクトメンバー



国内事業
丹羽 俊策



交流事業
佐藤 元紀

WAFCAへの参加方法

いっしょに活動しましょう！

寄付

クレジットカード、口座引き落とし、郵便振込からの寄付が可能です



イベント

対面イベントやオンラインイベントなど様々な形で開催しています



ボランティア

常時は募集していませんがイベント時などに募集します



SNS

フォローお願いします！



公式LINE



Instagram



facebook

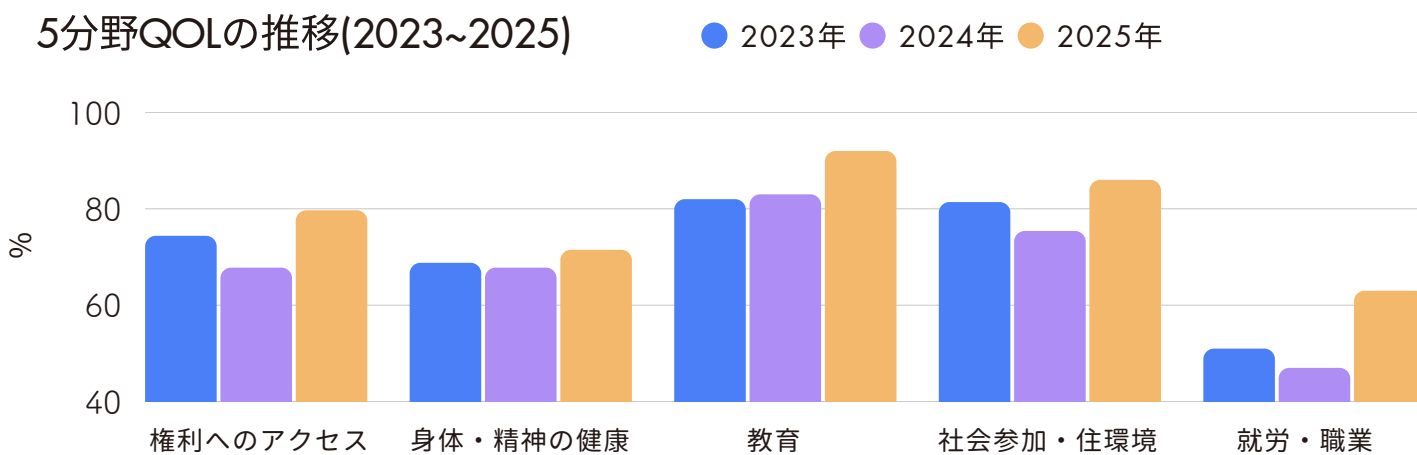
財務報告

2025年		2026年			
科目	計画	実績	達成率	計画	対前年増減率
I 経常収益					
1 受取会費	12,018,234	12,935,750	108%	12,348,963	95%
2 受取寄付金	31,168,000	36,290,300	116%	33,540,000	92%
3 受取助成金等	1,000,000	1,300,000	130%	4,000,000	308%
4 事業収益	1,740,000	2,183,552	125%	3,050,000	140%
5 交流事業/その他収益	1,629,856	543,591	33%	789,687	145%
経常収益計	47,556,090	53,253,193	112%	53,728,650	101%
II 経常費用					
1 事業費	48,505,883	45,535,169	94%	49,497,410	109%
2 管理費	6,586,531	9,305,748	141%	9,105,928	98%
経常費用計	55,092,414	54,840,917	100%	58,603,338	107%
税引前当期正味財産増減額	-7,536,324	-1,587,724	118%	-4,874,689	307%
法人税、住民税および事業税	21,000	21,000		21,000	
当期正味財産増減額	-7,557,324	-1,608,724		-4,895,689	
前期繰越正味財産	45,205,603	45,205,603		43,596,879	
次期繰越正味財産	37,648,279	43,596,879		38,701,191	

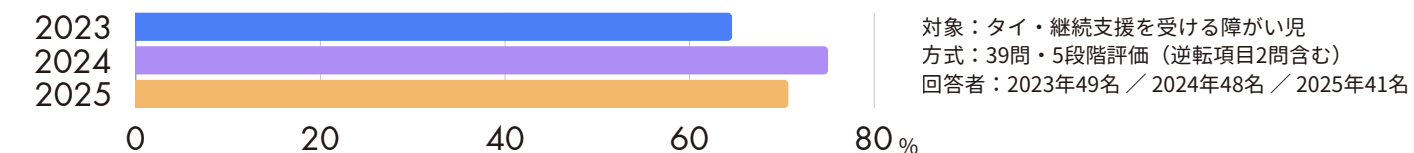
貸借対照表	
I 資産の部	II 負債の部
1 流動資産	1 流動負債
現金	預り金
普通預金	未払金
売掛金	流動負債合計
青少年交流基金特定資産	1 固定負債
未収金	固定負債合計
前払費用	負債合計
繰越商品（チャリティ商品）	III 正味財産の部
貯蔵品（切手・収入印紙・商品券・図書カード）	前期繰越正味財産
流動資産合計	当期正味財産増減額
2 固定資産	正味財産合計
有価証券	負債および正味財産合計
車両運搬具	
什器備品	
商標権	
固定資産合計	
資産合計	

障がい児の生活の質（QOL）調査 3か年報告 2023-2025

WAFCATでは、継続的な支援の成果を把握するため、障がい児を対象に「生活の質（QOL）調査」を実施しています。調査は、障がい者の権利へのアクセス、健康、教育、社会参加、就労準備など5分野39項目で構成され、回答者が「良い・非常に良い（4～5点）」と評価した割合を集計しています。



総合QOLの推移



主な成果



教育が最高値達成

2025年に92.2%へ向上。学習機会の
拡大が成果に。



住環境が改善

住居・補助設備の評価が
72.9%→82.3%に向上。



社会参加が高水準維持

3年間を通じて約90%を継続。地域とのつながりが継続。

今後の課題



精神的健康への支援

他分野と比べて低水準。心理社会的支援の充実が必要。



就労・職業機会の拡大

63.0%と最も低い。将来の就労に向けた機会づくりが課題。



総合QOLの安定化

2024年から2025年にかけて4.3pt低下。継続的なモニタリングが必要。